

埼玉中央

東京新聞

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

亡くなった人の品々を遺族に代わり整理する民間業者「遺品整理士」の資格を、行田市埼玉のリサイクル会社経営、久保公人さん(四〇)が県内で初めて取得した。核家族化と高齢化で、孤立死も社会問題になる中、遺族が遺品整理を業者に頼むケースが多く、需要は増えているといふ。

(宮本隆康)

遺品でつなぐ 遺族の思い出

認定制度を設けている

一般社団法人「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)

などによると、需要が急増する一方、家族が亡くなつた混乱に乘じ、見積価格の十倍以上の高額請求や、不法投棄などの問題も起きている。

行田の久保さん



遺品整理士の認定証を手にする久保さん=行田市で

県内初の「整理士」に

このため、北海道のリサ

イタル業者らが昨年九月、

業界の健全化を目的に協会

を発足。同十一月に認定制度を設けた。遺族へ接する

心構えや、廃棄物処理関係の法律などを通信教育で学

び、試験を経て認定され「依頼は右肩上がりで増え

る。これまで全国で百人前続いている」と話す。

久保さんは四年前にリサイクル会社を立ち上げ、遺品整理に携わってきた。

久保さんによると、現場のほとんどが、東京都内や県南部の都市部。大半が別居する子どもからの依頼で、故人に身寄りがなく、アパートの大家が依頼主に

後が合格した。

「最初は使い古されていればごみと思ったが、そういう物ほど大事にされる」と久保さん。持ち上げただけで壊れた本棚を「それは捨てないで」と言われたり、遺族から後で頼まれ、「みの山から古い木刀を搜し出した」ともある。どんな思い出が詰まっているのか、あえて聞かないが、遺族から泣きながら「ありがとうございます」と感謝される時、仕事にやりがいを感じるといふ。